

第 132 話<闘争史>の要約と参考資料

第 132 話<闘争史>の要約

土呂久鉦山が亜ヒ酸を製造した 1920-1962 年、和合会は 9 回にわたって煙害反対の闘いを繰り広げました。結果は 3 勝 3 敗、3 回は行政加担によって亜ヒ焼きが継続されました。めげず、たじろがず、あきらめなかった集落をまとめあげたのは、リーダーたちの貢献でした。

第 132 話<闘争史>の参考資料

1 3 2 - 1 和合会の煙害反対闘争の歴史

	時 期	闘 い の 目的	結 果	和 合 会 等 の 闘 士	参 考 文 献
1	1923 年 5 月 ~1923 年 11 月	煙害防止設備要求	交付金支払い含む契約締結	会長：佐藤為三郎、副会長：佐藤竹松	議事録、牧然報告記
2	1924 年秋 ~1925 年 6 月	牛馬病死の原因追及	獣医師による死亡牛解剖、村長から県へ鑑定依頼、 県から鑑定の報告なし	村長：甲斐徳次郎 獣医師：鈴木日恵、池田牧然	日州新聞記事、斃牛解剖書、牧然報告記
3	1934 年 7 月 ~1936 年 4 月	スズ鉦山による亜ヒ酸製造反対	内務省へ亜ヒ酸精錬反対陳情、村長が県へ絶対不許可陳情、 煙害料支払いを含む契約締結	会長：佐藤助、副会長：佐藤清八、村長：甲斐徳次郎	延岡新聞記事、議事録
4	1936 年 11 月 ~1938 年 5 月	反射炉設備改善要求	村長に訴え、県への陳情検討、 反射炉に遊煙タンク設置	会長：清八、副会長：佐藤助、茂、節蔵、栄蔵、良蔵、民蔵、利四郎	議事録
5	1941 年 2 月 ~1941 年 初夏	鉦山との契約更新拒否	村に陳情、県に陳情、監督局で説明、監督局の現地	会長：助、副会長：三代士、監督局行き：十市	県あて陳情書、議事録、法務局調査書

			調査、 亜ヒ酸製造中止	郎、節蔵、嘉市、正喜、利四郎、清助、陳情書代書：高橋正満	
6	1952年9月 ～1954年5月	亜ヒ酸製造再開反対	新焙焼炉建設計画、反対請願、試験焼き反対決議、条件付き賛成、協力金30万円支払うと約束した 覚書 、煙害出せば操業中止と十分な補償を約束した 契約書締結 、 亜ヒ酸製造業再開	会長：竹松、副会長：藤太、請願書：健蔵、焙焼炉予定地見学：竹松、十市郎、清八、茂、重男、操、所長宅抗議：仲治、婦人会：ヤソ	議事録、新聞記事
7	1955年4月 ～1958年5月	シイタケ栽培試験による煙害確認	シイタケ栽培試験開始、無発芽確認、 専門家による煙害否定	会長：竹松、副会長：藤太、栽培試験：十市郎、弘、煙害主張の談話：高橋正満	
8	1959年4月 ～1960年2月	契約書にもとづく焙焼炉廃止要求	和合会から町長に陳情書、町長から鉦山へ改訂申し入れ、 期限切れのため亜ヒ酸製造継続	陳情書：三代士、藤太、竹松、十市郎、仲治	議事録、和合会から町へ陳情書、町から鉦山へ申入書
9	1962年10月 ～1962年12月	新会社に契約更改もしくは亜ヒ酸製造中止要求	中興鉦山会社が解散、 土呂久鉦山が閉山	会長：勝、副会長：藤太	新聞記事

132-2 和合会の闘いのリーダーと闘士

「笠」 小笠原利四郎

「惣見」 為三郎、清八、勝

「鶴」 三代士

「樋の口」 助、ヤソ

「向土呂久」 茂、サミ

「向土呂久」の分家 忠行

「荒地」 節蔵、仲治

「中間」 栄蔵、健蔵

「畑中」 竹松

「白石」 十市郎

(*小笠原以外は佐藤姓)